



関節痛の疫学

Tuhina Neogi, MD, PhD, FRCPC

(細井昌子 訳)

筋骨格系の痛み、特に関節痛と背部痛は、最も多い慢性痛である。関節痛における最も多い原因は、関節炎に関連したものであり、たくさんのタイプがみられる。そして患者は、常に関節痛に対する治療を求めており、関節痛は生活障害の主要な原因の一つとなっている。

ナショナルヘルスインタビュー調査のデータによると、米国では、推定 5250 万人 (22.7%) の成人が医師によって関節炎と診断されており、2270 万人 (9.8%) が関節炎や関節炎による活動制限がある、と報告されている。そして、2030 年までには、6700 万人、すなわちアメリカ人成人の 4 人に 1 人が関節炎を有することになるだろうと推測されている。また、成人の約 30% において、最近の 30 日間で何らかの関節痛を有しており、膝関節が最も高頻度の部位であったと報告されている。さらに、2007 年のヨーロッパ委員会によるユーロバロメーター調査では、回答者の 22% に筋骨格系の問題があり、これは最も頻度が高い健康障害であったと述べられている。

変形性関節症は最もよくみられる関節炎であり、他の疾患よりも高齢者の生活障害の原因になり得る。この疾患は全身のすべての関節で生じ、多くの関節組織の中に病理学的変化をもたらす異常な修復反応が関連しており、加齢とともに有病率が増加する。ただし、レントゲン上な異常が明らかにみられる人が全て痛みを経験するわけではない。世界人口のおよそ 10-15% が有症状の変形性関節症に罹患しており、米国では 2700 万人、英国では 850 万人と推計される。また、7 か国のヨーロッパ健康インタビュー調査のデータによると、医師が診断した変形性関節症の罹患率には 5-25%(年齢で標準化すると 3-18%) の幅がみられる。そして、膝関節、手関節、および股関節に変形性関節症を生じやすい。



© Copyright 2016 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

IASP brings together scientists, clinicians, health-care providers, and policymakers to stimulate and support the study of pain and translate that knowledge into improved pain relief worldwide.

腰痛は多くの要因で生じるものであり、必ずしも関節炎と関連していないが、腰痛は脊椎の関節症性変化と関連している。このように、腰痛が多くの要因から生じるという性質は、腰痛の時点有病率が人口の 8-39%、生涯有病率が人口の 60-85%であることにも反映されている。よって、多くの人々が人生で 1 回以上腰痛を経験することになる。

結晶関連の関節炎である痛風は、今や炎症性関節炎の中で、最もよくみられる病態である。突発する急性疼痛が特徴で、やがて慢性痛となる。痛風は現在、世界人口の 1-4%程度の人が罹患しているが、マオリ族の家系などのいくつかの住民では、より高い頻度（6%）にみられる。また、関節リウマチは、自己免疫性の全身性関節炎として最もよくみられる病態であり、関節痛、腫脹、朝のこわばりがみられ、対称性の多関節炎として特徴づけられる。この関節リウマチは世界中で 1%未満の人が罹患している。

生活障害がみられる原因疾患としては、腰痛が 1 位で、頸部痛が 4 位、変形性関節症が 11 位で、そのほかの筋骨格系疾患が 6 位となっており、これらは異なった地域でも、ほぼ同様な結果であった。このように、世界中で、関節痛などの筋骨格系の問題は、公衆衛生上でも大きな課題になっている。これらは、単に痛みの問題だけでなく、身体機能の低下、社会参加への制限、生活の質の低下にも関連し、さらに、いくつかの関節炎は、関節炎そのものの直接的な障害だけでなく、併存する合併症、副作用による転帰や薬物療法に関連した副作用イベントによって死亡率増加を招いている。

関節痛の経済的影響は、かなり大きいものである。医療費支出パネル調査によると、米国では、関節炎関連事象に関して、1996 年から 2011 年でヘルスケア支出額が最も増加（192%）していた。また、米国における一人あたり平均の関節炎と関節痛に対する総直接経費は、2009 年から 2011 年間で 9556 ドルであり、その直接経費の総計は 5809 億ドルであった。

ヨーロッパ連合の国々では、これらの筋骨格系疾患のとりまく状況は、ヘルスケア経費の中で、診断に最も医療費のかかる分野になっている。英国では、2003 年に筋骨格系疾患に対する総合診療医の診療費として見積もられている額は 134 万ポンドで、心血管系疾患に次いで 2 位になっている。ドイツでは、2008 年の筋骨格系疾患のための医療費は 285 億ユーロで、その年の全医療費の 11%以上を占めていた。そして、このようなヘルスケアでの支出に加えて、関節痛による欠勤・仕事上の生産性低下や早期退職によって、経済的な生産コストへの影響が生じている。

以上まとめると、関節痛は、世界中で罹患率が高く、生活障害をもたらし、社会に対して大きな経済的損失を与えている。

文献

1. Centers for Disease Control and Prevention. Prevalence of Doctor-Diagnosed Arthritis and Arthritis-Attributable Activity Limitation – United States, 2010-2012. *MMWR* 2013;62:869-873.
2. Helmick CG, Felson DT, Lawrence RC, et al. Estimates of the prevalence of arthritis and other rheumatic conditions in the United States. Part I. *Arthritis Rheum* 2008;58:15-25.
3. Lawrence RC, Felson DT, Helmick CG, et al. Estimates of the prevalence of arthritis and other rheumatic conditions in the United States. Part II. *Arthritis Rheum* 2008;58:26-35.
4. Vos T, Flaxman AD, Naghavi M, et al. Years lived with disability (YLDs) for 1160 sequelae of 289 diseases and injuries 1990-2010: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2010. *Lancet* 2012;380:2163-96.
5. Neogi T. The epidemiology and impact of pain in osteoarthritis. *Osteoarthritis Cartilage* 2013;21:1145-53.
6. Hoy D, Brooks P, Blyth F, Buchbinder R. The epidemiology of low back pain. *Best Practice & Research Clinical Rheumatology* 2010;24:769-781.
7. The European Musculoskeletal Surveillance and Information Network. Musculoskeletal health status in Europe. (Accessed May 1, 2015 at www.eumusc.net)
8. The Burden of Musculoskeletal Diseases in the United States. Economic Cost. (Accessed May 1, 2015 at www.boneandjointburden.org)

About the International Association for the Study of Pain®

IASP is the leading professional forum for science, practice, and education in the field of pain. [Membership is open to all professionals](#) involved in research, diagnosis, or treatment of pain. IASP has more than 7,000 members in 133 countries, 90 national chapters, and 20 Special Interest Groups.

Plan to join your colleagues at the [16th World Congress on Pain](#), September 26-30, 2016, in Yokohama, Japan.

As part of the Global Year Against Pain in the Joints, IASP offers a series of 20 Fact Sheets that cover specific topics related to joint pain. These documents have been translated into multiple languages and are available for free download. Visit www.iasp-pain.org/globalyear for more information.



© Copyright 2016 International Association for the Study of Pain. All rights reserved.

IASP brings together scientists, clinicians, health-care providers, and policymakers to stimulate and support the study of pain and translate that knowledge into improved pain relief worldwide.